

# 心筋梗塞など虚血性心疾患による死亡者数は全国で年間約7万人



心臓病による年間死亡者数は年間約21万人  
がん仅次于第2の死亡原因

取材・文／松沢 実・医療ジャーナリスト

常に即効性硝酸薬  
ニトログリセリンを手許に!

わが国の心疾患は心臓病による死亡者数は年間約21万人にのぼります。脳卒中による死亡者数(年間約12万人)を上回り、がん(同約38万人)に次ぐ第2位の死亡原因となっています。心臓病は大きく5つのタイプに分けられます。第1に動脈硬化が原因

となる狭心症や心筋梗塞などの虚血性心疾患、第2に心臓の拍動が乱れる不整脈、第3に生まれつき心臓の問題がある心房中隔欠損症などの先天性心臓病、第4に心筋や心臓の弁心膜などの病変、そして第5に心肥大や心臓神経病などその他の病変です。そのうち、狭心症や心筋梗塞などの虚血性心疾患によって亡くなっている方は、心臓病による全死亡者の約3分の1、約7万人(年間)に達しています。

とくに怖いのは  
命を落としかねない心筋梗塞

ご存じのように、心臓は全身に血液を送り出すポンプの役割を果たしています。心臓から送り出された血液は全身の各器官や組織などに酸素と栄養を補給し続けていますが、心臓自体も、心臓の表面を走る動脈に血液を送り込まれ酸素と栄養

虚血性心疾患の中でもとくに怖いのが心筋梗塞です。冠動脈が詰まると血流が途絶え、その先に酸素と栄養が送り込めなくなります。その結果、心筋が壊死し、心臓のポンプ機能が失われて心不全に陥ったり、あるいは心室細動などの不整脈が起こったりして、死を招きかねないからです。かつて「東京マラソン」に出場したお笑いタレントの松村邦洋さんが突然、走っている最中に意識を失っ

## 一刻を争う心筋梗塞の治療——詰まった冠動脈の再開通!

て倒れたのも、急性心筋梗塞による心室細動が原因でした。自動体外式除細動器(AED)による救命措置で一命をとりとめたものの、危うく命を落としかねないところだった

のです。

重要なのは、心筋梗塞がかならずしも狭心症から進展するというわけではないことです。どちらも冠動脈の動脈硬化を背景にして起こるため、血管の狭窄⇨狭心症を繰り返しているうちに、血管の閉塞⇨心筋梗塞に至ると考えられやすいのですが、実際はそうではありません。心筋梗塞を発症させた患者のうち、それ以前に狭心症と診断された人は、わずか約20%でしかなかったというデータ(帝京大学医学部)も明らかにされています。

求められる発症後  
6時間以内の冠動脈の再開通

心筋梗塞の治療は一刻を争います。冠動脈が完全に詰まり、その先に血液が通わなくなると、心臓の心筋が壊死してしまふからです。心筋梗塞の治療で重要なのは、一刻も早く詰まった冠動脈を再開させ、心筋の壊死の進行を止め、それを最

小限にとどめることです。発症後6時間以内に冠動脈を再開通させれば、90%以上の患者が一命をとりとめられます。

しかし、適切な治療が受けられず、冠動脈が閉塞したままであれば、時間の経過とともに心筋の壊死は進行し、12〜24時間のうちに完全に壊死してしまいます。

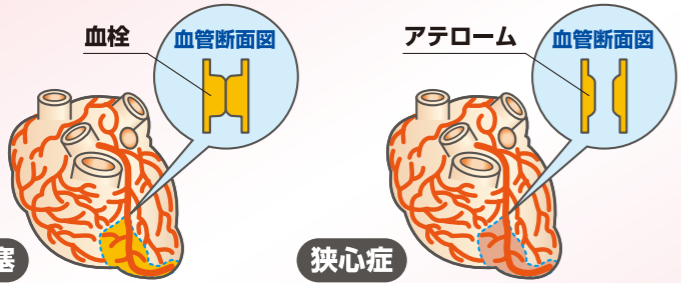
心筋の壊死が完成してしまうと、もはやどのような治療を尽くしても元の心筋に戻りません。冠動脈の再開通によって命が助かったとしても、心筋の壊死の程度によっては心臓の機能が大きく損なわれてしまうのです。

血液を固まりにくくする  
抗血小板薬のすみやかな投与

心筋梗塞の治療では、薬が重要な役割を果たします。まず病院へ救急搬送され心筋梗塞と診断されると、すみやかに血液中の血小板の働きを抑えて血液を固まりにくくする抗血小板薬のアスピリ

冠動脈の詰まりを解消する  
カテーテル治療  
⇨PCIによる再灌流療法

痛みがひどいときは、モルヒネ(同塩酸モルヒネ)が静脈から投与されます。さらに血液を固まりにくくする抗凝固薬のヘパリンナトリウム(同ヘパリン等)も静脈から投与されます。次に、冠動脈の詰まりを解消し、血流を再開させる再灌流療法がただちに行われます。心筋梗塞に対する緊急時の再灌流療法は、カテーテル治療と薬物療法の2つがあります。カテーテル治療は経皮的冠動脈インターベンション(PCI)といいます。手首や肘の細い動脈から直径1



心筋梗塞

狭くなった血管内腔に、さらに血栓(血液のかたまり)が詰まり、血流が途絶して、心筋が壊死に陥ります。

狭心症

冠動脈の内腔が、アテローム(コレステロールなどの沈着)によって狭くなり、心筋に十分な血液が送られず、酸欠状態になります。

